

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター 所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察技術情報について

令和 7 年度 病害虫発生予察技術情報第 17 号を公表しましたので送付します。

令和 7 年度 病害虫発生予察技術情報第 17 号

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期

カンシャコバネナガカメムシはサトウキビの葉鞘や梢頭部に潜み、集団で吸汁加害する。株出し栽培で被害が多く、多発すると 20% 以上減収する事がある。1 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場では防除適期を失しないよう注意する。

1 発生状況

- (1) 沖縄本島中南部における 3 月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は 1.3 頭（前年 0.5 頭、平年 1.0 頭）と平年並みであった。
- (2) 宮古島における 3 月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 1.9 頭（前年 0.1 頭以下、平年 1.4 頭）と平年並みであった。
- (3) 石垣島における 3 月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は 0.1 頭以下（前年 0.1 頭以下、平年 1.4 頭）と少発生であった。

2 防除適期予想日

防除適期予想日(3月16日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月10日～4月25日	4月17日	4月21日	4日早い
南・北大東島	4月10日～4月25日	4月17日	4月17日	平年並み
宮古島及び周辺離島	4月2日～4月17日	4月9日	4月12日	3日早い
石垣島及び周辺離島	3月27日～4月11日	4月3日	4月6日	3日早い
与那国島	3月30日～4月14日	4月6日	4月9日	3日早い

* 2/1～3/15 は観測値、3/16～4/10 は1ヵ月予測値。4/11 からは平年値を使用（沖縄気象台発表）。

3 生態

- (1) 集団で葉鞘や梢頭部に潜み吸汁加害する(図1)。
- (2) 年2～3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には長翅型と短翅型(図2)がある。長翅型は高温・高密度で出現し、夏から秋にかけて移動分散を行う。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3～4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4～6月が第1世代、7～8月が第2世代、9～10月に第3世代が発生する。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 茎当たり虫数が 20 頭を超えるほ場(図1)は防除を行うことが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。



図1 集団で吸汁加害する1齢幼虫



図2 短翅型成虫と長翅型成虫



図3 幼虫

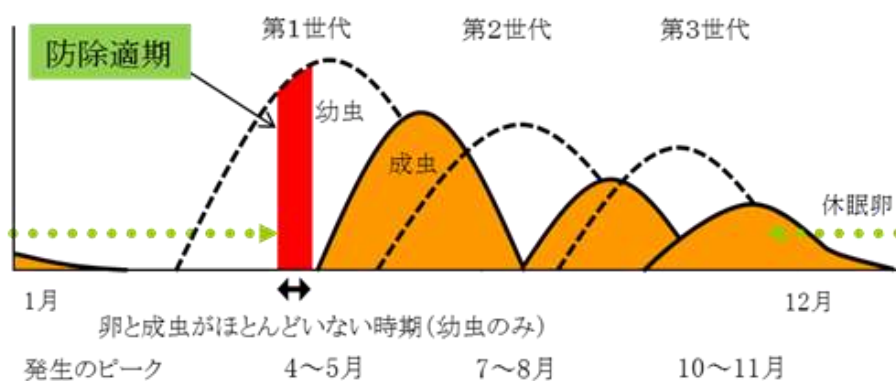
(1、2 齢幼虫が多い時期が防除適期)

【参考資料】

1. 防除適期とは

カンシャコバネナガカメムシの防除は、農薬の効果が低い卵や成虫が少ない時期が最適です。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化が終わります。この数週間は成虫が少なく、さとうきびの草丈も低いいため農薬散布に適しています。

下の図の赤い部分が若齢幼虫(図3左側)が多く最も薬剤散布に適した時期です。これは卵がすべてふ化する時期を予測することで算出されます。2月1日を起点として、日平均気温が13℃を上回った温度(2月1日が16.4℃だった場合は3.4℃)を累積し、480℃を超えた日が防除に最適の日となります。その前後1週間が防除適期に含まれます。また、この予想日に発生する幼虫の齢が平均2.5になるため、予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっています。



2. 要防除密度

4月中～下旬の防除適期に発生量を確認し、一茎当たり 20 頭以上のカンシャコバネナガカメムシが確認された場合は、農薬散布を行う。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <https://www.pref.okinawa.jp/shigoto/nogyo/1010700/index.html>

